



史跡 若杉山辰砂採掘遺跡の未来を考える

今からおおよそ2000年前。私たちの祖先は、鉱脈をたどり若杉谷の山中に分け入りました。辰砂を採掘するためです。辰砂から作られた水銀朱は、赤色顔料として土器の彩りや葬送儀礼などに使用され、全国に流通しました。

若杉山辰砂採掘遺跡は、弥生時代終わりから古墳時代はじめ（1〜3世紀）にかけて辰砂採掘の内容を知ることができる全国唯一の遺跡で、令和元年10月16日に国史跡に指定されました。

本遺跡を今後どのように整備し、活用を図っていくべきなのか。

課題解決の足掛かりとして、10月17日、文化会館にてシンポジウム「古の採掘遺跡サミット」を開催し、約160人が参加し遺跡への理解を深めました。

講演した文化庁文化財第二課文部科学技官の川畑 純さんは、史跡を守り、生かしている事例を紹介。「史跡がもつさまざまな価値をしっかりと調べ、認識し、それを高め広げていけるような働きかけが必要。多くの人が史跡を、地域の宝として受け入れ、主

体的に関わってほしい」と話しました。

また、同様の採掘遺跡をもつ5つの自治体から遺跡保存・活用の紹介があり、長野県長和町の羽田町長、長野県下諏訪町の青木町長、香川県小豆島町の松本町長からは、「地元住民の方に文化遺産を知っていただくことが重要」「イベントなど体験を通じた伝承が有効」「オンラインツアーの実施や教育旅行の推進で、遺跡を紹介する機会を増やしては」などの提言をいただきました。

はるか古の時代、阿南は世界から注目された重要地域だったと考えられると、わがまちが誇らしく思えます。市では、本年度より、有識者による「保存活用計画策定委員会」を設置し、今後の方針を検討しています。「地域の宝を大切に守り伝えていくこと」、それは現代を生きる私たちの大きな役割です。



講演する文化庁の川畑 純さん



史跡の活用について話し合う

シンポジウム映像 広報番組のご案内

シンポジウムのようすは、YouTube「阿南市公式チャンネル」で視聴することができます。また、シンポジウムや遺跡を紹介する広報番組を制作しました。ケーブルテレビ11chやYouTubeで放映しています。ぜひ、ご覧ください。



サミットの模様はYouTubeでライブ配信



若杉山辰砂採掘遺跡をPRするマスコットキャラクター「若杉シンジャくん」が、シンポジウムでお披露目